

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2795200092		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこの家友洲町		
所在地	大阪府大阪市都島区友洲町3-8-14		
自己評価作成日	平成 29年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成 29年 2月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 2月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日入居者様と食事メニュー、買い物リストを作成している。 ・入居者様と一緒に近所のスーパーへ買い出しに行っている。 ・3食一から手作りで食事を作っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪市内で多数のグループホーム・介護付有料老人ホーム等を運営している有限会社が1年前に開設した3ユニットのグループホームです。ホームは介護付有料老人ホームと隣接されており、夏祭りや歌謡ショー等連携して取り組み利用者同志の交流を図ったり、研修を通して職員育成にも力を入れています。ホーム前には地域住民の憩いの公園があり、日課の散歩や地域夏祭り・餅つき大会が利用者の楽しみの場となっています。食事は3食共利用者と職員と一緒に手作りをしています。食事のメニュー決め・買い物・下準備・盛り付けと利用者それぞれができることで関わることを大切にしています。職員はぬか漬け・梅干し・らっきょう漬け等を利用者から教えてもらいながら作るなど自宅で暮らしているような家庭的な雰囲気があります。中庭で野菜を育て、バーベキューを楽しむなどしています。施設長・職員は利用者一人ひとりのペースに合わせた生活スタイルを大事にした支援に努めています。1年目の新しいホームですが職員は互いに思いやりを持って笑顔で支援できるよう頑張っている今後に期待できるホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入職時に渡している“ケア方針”及び“事業所規定”に記載しその意味を説明している。全体会議においても理念の“HAPPY”とはと言う議題でみな意見の意見を聞いている。	施設長や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。企業理念の基に「お一人おひとりが新たな”Happy”に出逢えるようお手伝いしてまいります」をホーム理念として各ユニットの詰所に掲示しています。ミーティングや研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有しています。施設長は開設1年を振り返り、職員全員が理念を理解し達成できるような支援を目指した35項目の「ケア方針」の見直しをしていく予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日近隣のスーパーに入居者様と一緒に買い物に出かけたり、地域の夏祭り、餅つき大会などの行事にも参加させてもらっている。平成 29 年度より町内会にも入会する。	ホームは、平成29年1月に町内会に加入しました。利用者と職員は、地域の夏祭りや餅つき大会に参加したり、同系列有料老人ホームとの交流があります。隣接の有料老人ホームとの合同夏祭りや歌謡ショー等の交流は利用者の楽しみとなっています。今後は地域住民がホームの夏祭りに参加してもらえるよう検討をしています。認知症ケアに対する住民の理解を得るために玄関前の掲示板に行事のお知らせ文を掲示する等しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	まだ実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービス実施状況を報告し、意見が出たものについては改善に向けた取り組みを行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、利用者、家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、同系列有料老人ホーム管理者、施設長、副施設長等の構成となっています。ホームの運営状況、行事、活動報告、研修報告等議題にしています。施設長は利用者や家族からの意見・質問に対して丁寧に説明を行い参加者からの色々な情報を取り入れ、1年目の運営に活かそうと積極的に取り組んでいます。運営推進会議録は家族に送付をしたり1階事務所に設置しています。	家族や地域代表の参加ができていない月がありますので、事前に参加しやすい日程を調整する等の工夫が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時に様々相談して開設を迎え、日が浅いため開設後の相談はあまり行っていない。	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。転倒での骨折や医療機関で縫合などの処置をした場合は、即報告をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の電子錠は身体拘束を目的とするものではなく、防犯対策として行っている。毎日の買い物と一緒にいき、施設内で閉鎖的な環境にしないよう努めている。	身体拘束排除のマニュアルを作成し、職員は研修や勉強会で身体拘束廃止について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。ホームでは玄関扉は防犯上電子錠で施錠していますが、エレベーターや各ユニット入口扉は手動になっており自由に行き来できます。外出願望のある利用者については、いつでも職員は見守りと付き添いで対応しています。	職員と今後の施錠についての取り組みをどうしていくのか検討されてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関して毎年研修を行い職員への啓蒙を行っている。 研修実施に合わせて高齢者虐待防止マニュアルの更新を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年法人として初めて現場職員向けの権利擁護研修を行った。 研修に合わせて権利擁護マニュアルを作成した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約前にも質問されたことについては、説明を行っている。 契約時に再度きちんと説明し納得していただいた上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所としては意見箱を設置している。	玄関を入ってすぐに目に入る受付の棚に意見箱を設置して、いつでも意見等を出せるようにしています。また、面会時やケアプランについて話をする際、職員の方から家族へ要望を聞き取るようにしており、その働きかけで「もう少し外に連れていってもらえたら」という家族の希望を聞き取ることができました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議において法人で行われている会議内容を説明し、意見を求めている。また、必要に応じてアンケートを実施している。	職員は、業務上のことについて毎月行われている全体会議でその都度意見や提案ができます。休憩時間について職員から意見が挙がり、休憩を取りやすいよう調整しました。また、個人面談を年2回行っています。そこで異動の希望等、業務以外のことも施設長に伝えられる環境が整っており、実際、隣設の有料老人ホームに異動したケースもあります。現在、制服について職員からの意見を反映させながら変更を検討中です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課の際に事業所としての評価を個別に面談し提示し、評価項目や足りないものを助言している。また、将来的なキャリアプランについても聞き取り本人の目指す方向性を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験を持って入職してきた職員に対しては、事業所の特徴に合った研修を選定し行ってもらっている。未経験の職員は、まず現場になじむことが出来るよう勤務を組む配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設後に都島区のグループホームに見学に行き、管理者同士の交流会を2ヵ月に1度程度実施している。 昨年地域包括支援センター主催の研修に参加した。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に計画作成担当者が本人の要望を聞き取り、ケアプランとして職員に伝え入居時点で本人の要望が職員に伝わっていることで、安心してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やインテーク時に主訴を聞き取り、どの様に対応するかを説明することで、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時点で入居の必要がないと判断した利用者様に関しては、地域包括支援センターの存在や必要に応じて、近隣のケアプランセンターを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを行ってもらうを前提に、掃除、ぬか漬けの世話やおしぼり作りなど本人の状態に応じた作業を提案している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を9:00～21:00に設定しており、いつでも訪問しやすい施設を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパー等に外出するなど、なじみのある場所に来るだけ出かけるようにしている。	入居前からの行きつけの理髪店に散髪に行ったり、家族とお墓参りに出かけたりしています。また、家族だけでなく親しくしていた親戚の方々がグループホームに訪ねてこられることも多く、関係性が継続できています。また、電話等の要望があれば、いつでも対応できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は食堂に集まり、皆で談話できる時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方に対しても、連絡があれば、相談助言を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24 時間シートを使用することで、その方の行動とその行動に対する思いを把握していきやすい	日々の生活を、24時間単位で詳細に記載できるシートを活用し、一人ひとりの暮らし方や希望を把握しています。このシートには、その日の状況を書きとめるだけでなく、その人の希望や好みに応じた支援のポイントがわかるよう、時間ごとに職員の配慮すべきことが具体的に示されています。その内容に追加、変更があると気づいたときはいつでも書き加えるようにしており、それを毎月担当している職員がまとめて変更する仕組みが整っているため、職員全員で一人ひとりの思いを丁寧に汲み取り、それを支援することができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時に聞き取った情報を、フェイスシートや 24 時間シートに記載し、その方の生活様式と想いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1 ヶ月ごとに 24 時間シートを更新することで、現在の状態を知ることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や主治医とは顔を合わせるときに現状報告と希望の聞き取りを行い、職員間の情報共有については、月に1度ユニットミーティングを開催している。	見直しを行う際、24時間シートをベースにしながら、モニタリング専用の書式を使用してユニットごとにミーティングで状況を確認したことを記録しています。それを基に家族の希望や主治医への確認を行ってから暫定のケアプランを作成し、2週間様子を見てからプランの決定を行うといった丁寧な介護計画の作成過程をたどっています。見直しは半年ごとに行っており、それ以外でも状態の変化があれば見直しを行うようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに居室担当を決めて、24時間シートの更新を行っている。更新する中での気づきを含めて、新たなシートに組み込み、介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず、自事業所で出来る事を考えるが入居者様の状態をみて他事業所の方が良い場合は繋げる様にしている。また、同法人の有料老人ホームが隣接している為協力できることは柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用した生活はまだまだ出来ていない。町会に今年度より入会する為今後力を入れて取り組んでいきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医の選定をしてもらい、主治医の診療が定期的に受けることが出来るように援助している。	利用者は家族の協力により、入居前からのかかりつけ医療機関へ受診することもできます。協力医は、月2回の定期往診をしています。訪問看護師が事業所へ来訪し、利用者の日々の健康管理を行っています。職員とは、利用者の健康状態についての連絡や相談をしています。夜間や緊急時にも連絡可能な24時間オンコール体制を構築しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に入居者様の情報を伝えている。 訪問時以外で相談が必要な場合は、電話連絡で相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、必ずお見舞いに行くようにしている。その時に地域医療連携室に立ち寄り、相談員と面識を持つように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	インテーク時、契約時、ケアプランの更新時など、その都度終末期についての聞き取りを行うように職員、家族に通知している。	入居時に、「重度化した場合における対応指針」について説明をして同意を得ています。重度化や緊急時に再度確認し、看取り介護に移行します。開設1年目ですが看取りの経験をしています。施設長は今後重度化が進んでいく現状から終末期ケアのあり方について研修を行い、全体会議等で検討していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度普通救命講習受講を全職員に義務付けている。事業所内に応急手当普及員を養成し、事業所内で普通救命講習を受講できる環境をすることで、受講率を安定させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、職員に掲示している。 運営推進会議においても災害の際の地域協力の議題は出ているが、具体的な協力体制は今のところ築けていない。	避難訓練は、消防署の指導のもと年2回実施しています。平成28年度は6月と12月に実施しました。12月は夜間想定避難訓練を行いました。利用者それぞれのロッカーに非常用持ち出し袋(水、食料等)を用意しています。また、3階廊下の倉庫にも水・食料等利用者・職員の3日分程度の備蓄をしています。非常口はいつでも開けられるようになっています。	備蓄食料等の賞味期限の管理に一覧表を作成されてはいかがでしょうか
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前の生活状況を把握し、どのように声をかけることが、その方を尊重する事となるのかを、職員それぞれが考えて行動している。	職員は年間計画に従い、権利擁護に関する研修等を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけは優しく丁寧で、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう配慮した態度で支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望される事柄については、実現に向けて入居者様と職員と一緒に考えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今はしたくないという時に無理強いせず本人のペースを守るようにしている。しかし、任せすぎると寝てばかりになるような方には、活動を促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者様には日常よりお化粧品やネイルアートを本人の希望に応じて楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは出来るだけ入居者様が参加できるように努め、食事時間には職員も同じものを同じテーブルで食べるようにすることで、家庭的な雰囲気作りをしている。	毎日のメニューは各ユニットがそれぞれに利用者の声を聞き相談して決めています。食材は、前日に利用者と一緒に買い物に行っています。3食共各階別メニューで利用者・職員が作っています。調理の準備等利用者もできる範囲で皮をむいたりつぶしたり丸めたりとできるところは一緒にしています。キッチンからおいしそうなおいがリビングいっぱい漂っています。大きなテーブルを職員も一緒に囲み、ゆっくり食事を楽しんでいます。嚥下困難な利用者にはとろみ食を作り、職員が声かけしながら介助しています。おかずの盛り付けや下膳など利用者もできることは手伝っており、また職員はぬか漬けや梅干し・らっきょう漬け等を利用者から教えてもらいながら作るなどして、自宅で暮らしているような雰囲気になっています。その他外食やバーベキューや餅つきなどの楽しみがあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分量を記録に残し、摂取量の少ない方については主治医等に報告しできる限り、好きな補食を提供し安定した摂取ができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に居室での口腔ケアを促している。自身で行えない方は、職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人排泄パターンを意識した排泄ケアを行っている。介護記録表で何時に排泄を行ったかが、職員全員にわかるような書式を使用している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ、トイレでの排泄を心がけています。食事前や利用者の仕草や表情をみてトイレ誘導をする、夜間のみポータブルトイレを利用するなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製のカスピ海ヨーグルトを10時の体操後に提供している。また、水分量もチェックしており、便秘気味の方には多く飲むように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施している。曜日は決めているが、行事や体調不良があれば、変更し対応している。	利用者は週2～3回入浴しています。浴室は個浴で明るく清潔です。本人の好みのシャンプーを用意する利用者もいます。重度化した利用者は隣にある同系列の有料老人ホームで機械浴入浴も可能ですが、本人の希望で清拭をしている利用者もいます。入浴を好まない利用者には、タイミングをみての声かけ、誘導など工夫して気持ちよく入浴できるようにしています。柚子湯や入浴剤でお風呂を楽しめる工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日のバイタル測定や本人からの訴えがあれば、居室で休んでもらうように援助している。昼夜逆転にならないように、時間やタイミングは配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を間違わないようにその場にいる職員2名で名前の確認を行い、服薬後体調に変化が見られれば、速やかに主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや漬物の世話など、その方が長年行ってきたことを、事業所の生活にも取り入れて手伝っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前の公園や近隣のスーパーには毎日出かけるようにしている。普段いけないような場所には、行事と言う形で実現できるように、希望を聞きながら行事の立案を行っている。	日常的に、ホーム前の公園に行ったり、食材やおやつの買い物に利用者も一緒にスーパーへ行っています。花見、外食、地域の夏祭り、隣の有料老人ホームでの歌謡ショーを見に行く等、行事としての外出の機会もあります。家族と定期的に自宅・通院・食事・喫茶店・買い物・理髪店・美容院・墓参り等で外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、小額のお金を持ってもらっている。管理が出来ない方でも、安心のために持つお金は家族の承諾を得ながら、所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話で家族と通話している方も入居されている。施設にかかってきた電話を取り次ぐこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに季節感のある装飾を施したり、目で楽しめる環境づくりを実践している。温度・湿度は1日2回測定し、快適な環境づくりを意識している。	リビングは、窓からの採光で室内は明るく、利用者は自由にテレビを見たり新聞を読んだりできます。リビングの壁面には、絵画やカレンダーや節分の鬼の面等飾っており、季節を感じられるように工夫しています。1階のリビングから、庭のオリーブや桜の木、2階からはプランターのチューリップ、3階からは外の公園が眺められ、四季の変化を感じることができます。台所での調理の音・におい、日常の生活で五感を刺激しています。加湿器や空気清浄器が置いてあり、室温・湿度は快適で、居心地良く過ごせます。トイレや洗面台には自動で出る石鹸やペーパータオルがあり清潔にも注意しています。玄関先には花を植えてあり、エレベーターホールにはソファや観葉植物があり、当日の職員と利用者と一緒に写った行事写真が掲示しており、寛げるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の配置など気の合う方との交流が自然と出来るように配慮している。また、交流が偏らないように、職員が中に入り全体的な交流を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼットなど生活に必要最小限のものは用意しているが、不足があれば使い慣れたものを持ち込んでもらえるように声かけをしている。	居室のベッド・クローゼット・エアコン・洗面台は、ホームで用意しています。和室で生活されていた方は、フローリングに布団を敷いて、畳の居室のようにして過ごしています。入口にはそれぞれの表札が掲げられ、ドアは内外側から鍵がかかるようになっており、鍵をかけてゆっくりと休まれる利用者もいます。居室は使い慣れた椅子、車椅子、テレビ、時計、加湿器、お茶の道具、家族の写真等に囲まれ、落ち着いた雰囲気になっています。利用者一人ひとりの想いを大切にし、その人らしく安心できる居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩く動線の確保や居室のレイアウトは日々考え、一人一人に合わせた対応を心掛けている。安全に関しては常に検討、変更が必要になって来るものである。		